

T.M.P. NEWS

VOL.63 2023.夏

T.M.P.

暑中お見舞い申し上げます。

猛暑が続く中、暑苦しい写真を掲載して甚だ恐縮ですが、本年2月3日、日本三大観音の一つ、大須観音のご下命により、布袋和尚に扮して、厄除け招福の節分祭に参加した時の風景となります。当日は中部電力MIRAI TOWER(旧・名古屋テレビ塔)のある栄地区を宝船が出発し、名古屋市を南北に結ぶ大津通を、沿道の方々に手を振る七福神ら一行を乗せて進みました。途中織田家の菩提寺である万松寺でご祈祷を受け、そこからは徒歩にて最終目的地である大須観音を目指しました。

七福神が触れるとご利益があるとの言い伝えから、大須商店街の沿道にいる多くの方々は頭を垂れ、七福神一行は各々が手にした団扇などで頭をなでて回りました。ゴールである大須観音の境内では、巨大な豆まき台が組み立てられ、一行は本堂でのご祈祷後、集まった観客を前に「福は内、福は内」の掛け声に合わせて豆をまきました。大須観音は伊勢神宮から授かった鬼の面が宝物です。よって「鬼は外」は禁句となり、「福は内」のみが掛け声になったそうです。

コロナも5月で5類に引き下がり、海外からの観光客も戻りつつあります。今年も残り半年、皆様に福が訪れる事を心よりお祈りいたします。

株式会社東海メディカルプロダクツ
代表取締役社長 筒井康弘



名古屋大学PhD登龍門 6期生修了式



3月14日、筒井会長が名古屋大学で客員教授を務める「博士課程教育リーディングプログラム PhDプロフェッショナル登龍門」の6期生の修了式があり、祝辞を述べました。

このプログラムは、『優秀な学生を俯瞰力と独創力を備え広く産学官にわたりグローバルに活躍するリーダーへと導くため、国内外の第一級の教員・学生を結集し、産・学・官の参画を得つつ、専門分野の枠を超えて博士課程前期・

後期一貫した世界に通用する質の保証された学位プログラムを構築・展開する大学院教育の抜本的改革を支援し、最高学府に相応しい大学院の形成を推進することを目的』として設置され、筒井会長は1期生が入学した時から客員教授として参画しています。今回の修了式も含めて今までで計54名の方がプログラムを修了され、残りは7期生2名となります。

名古屋大学 客員教授 辞令交付

4月2日、筒井会長が名古屋大学総長室にて客員教授の辞令交付を受けました。2012年に名古屋大学が優秀な学生を産学官にわたり、グローバルに活躍するリーダーへと導くために



始めた「名古屋大学リーディング大学院プログラム PhDプロフェッショナル登龍門」で講師に就任、2015年に客員教授となりました。今年度も引き続き客員教授をお願いされることとなり、辞令を交付いただきました。

ちなみに「国立大学法人名古屋大学」と「国立大学法人岐阜大学」は2020年4月に「国立大学法人東海国立大学機構」を設立、名古屋大学はこの機構の傘下に入っており、今回の辞令も東海国立大学機構から交付されております。

名古屋大学医学部附属病院 ドナルド・マクドナルド・ハウスなごや



2022年12月、「ドナルド・マクドナルド・ハウスなごや チャリティラッフル2022」に協賛しました。

ハウスなごやは、2013年に名古屋大学医学部附属病院の敷地内に開所された、難病に苦しむ子供とその家族を支援するための滞在施設です。

自身の娘との闘病生活で感じたことは他の家族も感じている、そのことに少しでも協力できればと筒井陽子副会長が以前寄付を行い、筒井宣政会長はハウス運営委員に就いています。

ラッフルとは慈善福引きという意味で、欧米では広く知られた募金活動の方法です。福引きの景品はハウス活動に賛同した企業等が無償で提供し、一方でラッフルに協賛した場合は協賛金額に応じた枚数の福引き券が渡され、抽選により景品をいただけるというものです。いただいた景品は12月29日の納会で社員に配布いたしました。

会社見学にお越しになりました



2023年2月21日

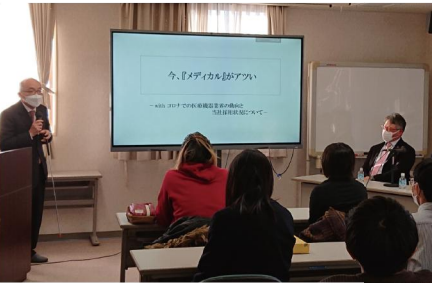
東京大学

工学部マテリアル工学科

教授 宮田完二郎先生

講師 白岩隆行先生

4年生、3年生 計20名



2023年6月29日

中部経済産業局 地域経済部

航空宇宙・次世代産業課

課長 片桐祐子様

課長補佐 後藤裕美子様

企画係長 速水大介様

行政事務研修員 土屋洋太様



2023年7月6日

春日井市議会

議長 村上慎二郎様

副議長 加納満様

事務局長 冲中浩様



中部医療機器工業協会 永年勤続優良従業員表彰式



5月16日に開催された中部医療機器工業協会の総会において永年勤続優良社員表彰式が執り行われ、当社社員が表彰されました。今回の表彰を励みとし、中部地区の医療機器製造業の更なる発展に向け、職務に邁進していただければと思います。

- ・愛知県知事表彰(勤続20年)
技術・薬事グループ開発1課 塚原麻子さん
- ・協会会長表彰 (勤続15年)
技術・薬事グループ開発1課 小椋淳平さん

政策研究大学院大学 橋本久義 名誉教授 来社



3月7日、政策研究大学院大学 名誉教授 橋本久義様が来社されました。経済産業省出身で「現場に近いところで行政を」をモットーに、全国の中小企業の現場を訪れて技術者・経営者の意見を聞いてきた現場主義の方で、政策研究大学院大学では発展途上国の産業発展・中小企業の活性化をメインテーマに研究し、「日本の中小企業は世界最強」「中小企業は日本のまごころ、世界の宝」と説いています。

過去に中小企業や町工場に関する書籍を多く執筆され、今回も記事執筆されている月刊テーマス6月号の取材で来社され、「東海メディカルプロダクツ『生命』救うカテーテル開発す」という内容で記事を掲載をしていただきました。(詳しくは当社HPをご覧ください)

2023年新入社員入社式



4月3日、本社にて2023年度新入社員入社式を執り行いました。新規学卒者3名の門出に向けて役員・社員一同で祝いました。

会長からは「為せば成る、為さねば成らぬ何事も」社長からは「皆さんの成長することによって会社も成長します。ぜひ当社での業務を通じて成長してください」とのエールが送られました。

当社創業の精神・企業理念に共感し、医療に貢献したいという志を抱いて入社を決めた新規学卒者3名は、4月12日まで総務課での研修を

受けた後、各部門での研修が始まります。これからの活躍を期待しています。(総務 東記)

第52回日本IVR学会総会

第52回日本IVR学会(大会長:高知大学医学部 放射線診断・IVR学講座教授 山上卓士先生)が5月18日~20日の3日間にわたり、高知県立県民文化ホール・ザ クラウンパレス新阪急高知にて開催されました。今回は「未来へとつづくIVR -Sustainable Development of Interventional Radiology-」をテーマとし、未来へと繋がるIVRの在り方を中心に様々なプログラムが生まれ、活発なDiscussionが行われました。今回も昨年に引き続き、現地開催とWEB視聴のハイブリッド方式にて開催されましたが、新型コロナが5類に移行し、「With コロナ」の社会へ変化したこともあり、大変多くの現地来訪者がありました。

当社は現地会場にて機器展示ブースを設置させていただき、TMPマイクロカテーテル「Carnelian®」シリーズ、TMPマイクロバルーンカテーテル「Pinnacle Blue®」、IABO/REBOA/バルーンカテーテル「Rescue Balloon® ER」などをメインに展示をさせていただき、非常に多くの先生方にご来訪いただきました。



今後もIVR・低侵襲治療に関しましては未来へ向け更なる成長が見込まれます。当社と致しましても国内企業として、引き続き先生方・患者様へ必要とされる製品の提供を行い、当社の創業の精神であります「一人でも多くの生命を救いたい」を念頭に置き、更なる成長を志してまいります。今後とも引き続きご指導の程、何卒宜しくお願い申し上げます。

(NVO営業 東山記)

第13回 豊橋ライブデモンストレーションコース



世間では少し落ち着きを見せている新型コロナウイルス感染症ですが、医療業界ではまだ予断を許さない状況の中、今回も完全WEB開催となった豊橋ライブデモンストレーションにてアフタヌーンセミナーを開催いたしました。

本会は2,000人以上の視聴参加があり、大変盛況の中、国産で初めてIABPバルーンを販売した当社がセミナー名「これからIABを看る人たちへ」と題し、座長・演者に小樽市立病院の平田和也先生、豊橋ハートセンターの天津浩太先生を迎え、先生方・コメディカルスタッフの方々だけでなく、IABPに関わる医療スタッフの方々に向けてもご講演いただき、

IABPの有用性と患者様に対する術後管理への理解を深めていただくことができました。ご視聴いただいた皆様には厚く御礼申し上げます。

当社はIABPバルーンカテーテル「TOKAI 7Fr-TAU(Tokai Advanced Usability)」や、肘から也可以使用できる「TOKAI 7Fr-Long」に加えて、小児用(最小5cc)から20ccまでの、小さな日本人向け製品を世界で唯一販売しております。

一人でも多くの生命を救うべく、新製品開発など、医療の発展や今回のような医療スタッフの方々の知識・技術の向上に携わっていただければと考えておりますので、今後ともご指導ご鞭撻のほど宜しくお願い申し上げます。(CPV営業 白井記)



4月29日、私が檀家総代を務める徳興山 建中寺の「法然上人御忌法要・稚児行列」がありました。建中寺は尾張徳川家先祖代々の菩提寺であります。私共筒井家の菩提寺でもあり、その関係から私は檀家総代だけでなく、建中寺の責任役員、建中寺幼稚園の理事、徳興会（檀家の懇親会組織）会長、愛知県・指定有形文化財である御霊屋（尾張徳川家の霊廟）保存修理専門委員会の委員長なども務めております。

稚児行列は、幼い子供を天童子（天界の童男・童女）の姿に装わせて一日仏の子として仕え、その徳により阿弥陀如来様の慈悲をいただいて、子供が健やかに成長することを願う行事です。以前は毎年行われていましたが、新型コロナウイルス感染拡大によって4年ぶりの開催で、そのためか今回参加申込が150名以上になり、当日は総勢500人以上が建中寺のある筒井町を練り歩きました。

当日は天気にも恵まれ、4月の暖かい陽気の中で建中寺の檀家の皆さん、筒井町の町内会・商店会の皆さんと一緒に歩き、大変清々しい気持ちでした。 筒井 宣政